

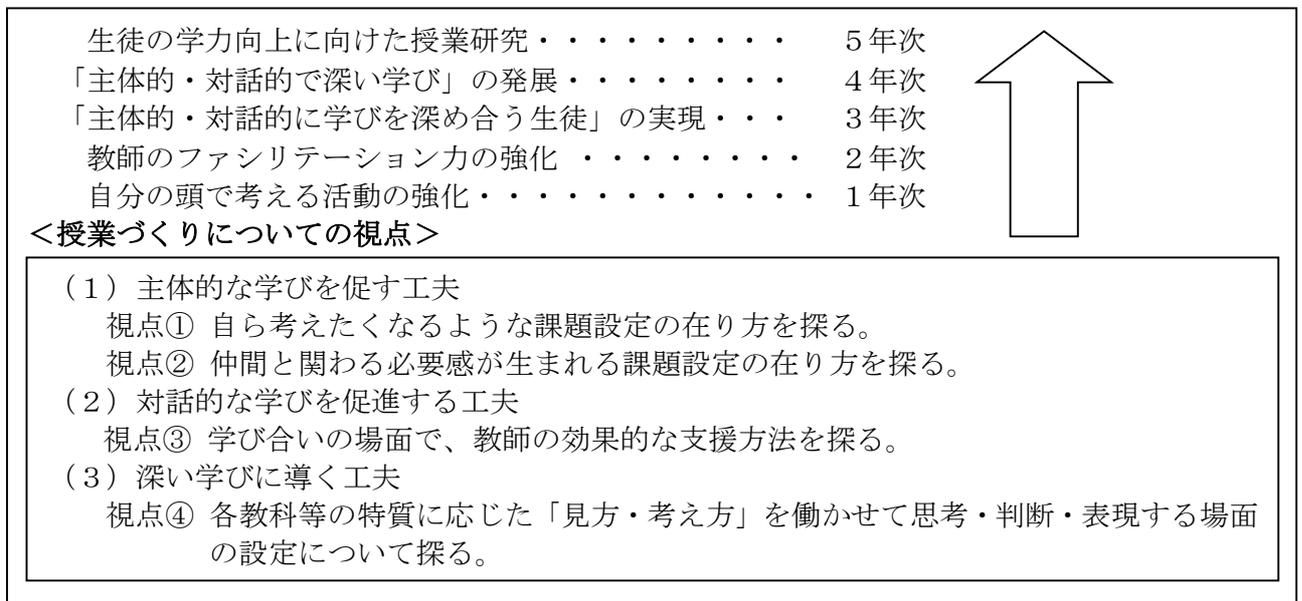
<様式>

学校名	山形市立第四中学校 山形市花楸二丁目10番48号 TEL 622-3904 FAX 633-9801	校長	加藤 洋一		
		研究主任	伊藤 大地		
研究主題	主体的・対話的に学びを深め合う生徒の育成（5年次） ～生徒の学力向上に向けた授業研究～				
研究主題設定の理由	<p>本校では、「主体的・対話的に学びを深め合う生徒の育成」を研究主題に設定し、各教科の授業実践を通して研究を深めてきた。昨年度は、計画指導主事訪問型の授業研究を中止したことで、教職員のゆとりを創造し、授業に向き合う時間的余裕を確保することができた。その中で、生徒自らが課題を設定して情報収集を行い、分かったことを整理・分析して、まとめ・表現する活動に対する教職員の更なる理解と具体的実践の蓄積が必要であると考えている。また、「主体的・対話的に学びを深め合う生徒の育成」を実現するために、各教科の特色を生かしつつ、探究的な学習のプロセスをより一層意識した授業展開を目指したい。そのため、各教科で身につけさせたい資質・能力を明確に捉え、見通しをもって単元を構想し、学習活動を計画していく必要がある。そして、教科で身につけた知識・技能、思考力・判断力・表現力を総合的に活用して、各教科の見方・考え方を働かせて解決を目指すような質の高い課題設定を行うことが今後も重要である。</p> <p>併せて、魅力的な単元を貫く課題について研究しつつ、本時の「課題」の位置づけと意味を生徒に理解させたい。具体的にはこの時間で「何ができたらよいのか」「どうなったらよいのか」「何に気づかせるのか」等、本時の活動のゴールの姿を生徒自身が明確に捉えられるように、内容や表現を検討していく必要がある。</p> <p>また、単元構想を行う際に、どの場面で、どのように生徒の学びをみとっていくのかを事前に計画しておくことが重要である。診断的評価や形成的評価、総括的評価をどの場面で実施していくのかを検討しておくことで、生徒の学びの実態に応じた指導内容の調整やきめ細やかな指導の実現が可能になると考える。</p> <p>そこで、上記の課題を解消し学力向上を目指していくため、今年度は生徒の学力向上のための授業研究の実践を積み重ね、分析・共有し、「主体的・対話的に学びを深め合う生徒の育成」を実現していきたい。</p>				
研究の目標	<p>研究の目標 学校教育目標の理念と確かな学力の3要素、目指す生徒像の具現化</p> <table border="1"> <tr> <td> ◆学校教育目標「立志 建学 貢献」 ○誇りと志をもち、自立する四中生（立志） ○深く考え、学びを表現し合う四中生（建学） ○互いを認め、未来を切りひらく四中生（貢献） </td> <td> ◆確かな学力の3要素 ○基礎的な知識・技能の定着 ○課題解決に必要な思考力・判断力・表現力 ○主体的に学習に取り組む態度 </td> </tr> </table> <p>◆目指す生徒像 自分の頭で考え、自分の言葉で表現できる生徒</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>「主体的に学びに向かい、自ら課題を発見し、既得の知識・技能、思考力・判断力・表現力を総合的に活用して多様な他者と協働する中で、見方・考え方を働かせてより良く課題を解決することができる生徒」の具現化</p>			◆学校教育目標「立志 建学 貢献」 ○誇りと志をもち、自立する四中生（立志） ○深く考え、学びを表現し合う四中生（建学） ○互いを認め、未来を切りひらく四中生（貢献）	◆確かな学力の3要素 ○基礎的な知識・技能の定着 ○課題解決に必要な思考力・判断力・表現力 ○主体的に学習に取り組む態度
◆学校教育目標「立志 建学 貢献」 ○誇りと志をもち、自立する四中生（立志） ○深く考え、学びを表現し合う四中生（建学） ○互いを認め、未来を切りひらく四中生（貢献）	◆確かな学力の3要素 ○基礎的な知識・技能の定着 ○課題解決に必要な思考力・判断力・表現力 ○主体的に学習に取り組む態度				

研究内容

1. 学力の定義と概念の共有
「学力」とは抽象的な概念であり明確な定義はないが、本研究では「教育課程の目標に対する達成の程度」と暫定的に定義する。また、本研究では、①「知識・技能」の習得 ②「思考力・判断力・表現力」の育成、③「学びに向かう力・人間性等」の涵養といった三要素を学力の要素と考えるが、学校教育法第30条第2項が定める学校教育において重視すべき3要素（「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「主体的に学習に取り組む態度」）に照らし合わせると、これらの考え方は大きく共通するものであることがわかる。これらの力を、学校の全ての教育活動において、総合的に高めていくことが学力の向上につながっていくと考える。
2. 授業研究について
年間指導計画や身に付けたい資質・能力の整理表を活用し、教科横断的な見方で視野を広げた「単元構想図」を活用する。
3. 探究型学習を意識した授業展開
「授業づくりについての視点」を意識し、「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」を実現するための具体的な手立てを明らかにする。

研究構想図



研究の方法

1. 各教員の日々の実践での授業研究
9教科・道徳・総合的な学習・特別活動の時間で、主体的・対話的で深い学びを実現するための授業実践・授業研究を行う。
2. 校内研修について
定期的に教科部会を開く。5教科は時間割に教科部会を一コマ入れて時間を確保している。教科の目指す生徒の姿や生徒につけたい力を明確にして、授業改善や共通理解に努め、研究を深める。また、校内授業研究会や校外研修、日々の授業等での学びをもとに、情報交換や意見交換を行いながら、教科の本質に迫るための指導改善に取り組む。
3. 相互授業参観について
日常的に教員同士が授業を開き、互いに授業を見合って検討する。教科の目指す生徒の姿や生徒につけたい力を明確にして、互いに研究を深める。また、校外研修、日々の授業等での学びをもとに、情報交換や意見交換に努め、教科の本質に迫るための指導改善に取り組む。
4. 研究の成果の確認
以下の二つの側面から、研究の成果としての生徒の学力の向上の結果をみとる。
 - ① 数値
・全国学力・学習状況調査 ・NRT ・評定状況 ・到達度テストの得点状況
 - ② 数値で表すことができないもの
・全国学力・学習状況調査 ・授業に向かう姿勢 ・学校生活の様子